

煙草と父ちゃん

別府 慶二（岡山県岡山市・五十七歳）

父ちゃんはよく煙草を吸っていましたね。

朝起きたら煙草をスパスパ。新聞を読みながら煙草をプカプカ。食後に煙草をポツポツ。

母ちゃんは煙草嫌いで父ちゃんとよく喧嘩してました。

喧嘩後はそれでも家の外で煙草を寂し気に吸っていましたね。

父ちゃんは煙草の煙を吐く時にリングにするのが得意でした。

まだ小さかった私は父ちゃんが吐く白い煙のリングが上昇していくのを見るのがとっても好きでしたよ。

父ちゃんは煙草が原因か分かりませんが、病気になる、四十代の若さで天国へ逝っちゃいましたね。母ちゃんは父ちゃんの死後、父ちゃんの同僚から、父ちゃんが職場でもよく煙草を吸っていたと聞かされました。

口下手な父ちゃんは人と話すのが苦手で、休憩時間は仲間と離れ、工場の片隅で一人煙草をくゆらせていたそうです。不景気で転職もままならず、家族を養うため意に添わぬ仕事でも続けざるをえなかった父ちゃん。

父ちゃんにとって、煙草だけがオアシスだったんですね。時々街中で、人が煙草を吸い、白い煙のリングが上がっていくのを見かけると、父ちゃんを思い出します。

今でも天国で煙草を吸い、白い煙のリングをほわーっと吐いていますか。
あの白い雲のような煙を。